

シンプ・四国遍路と大学教育

Ⓣ

四国歩き遍路大学ネットワーク主催のシンプ・ポジウムは、一部で各大学の取り組みを報告、つづいて昨年「歩き遍路体験学習」に参加した明德短大生が体験を発表した。

休憩時間は明德短大「地域文化論」受講生のお接待。遍路体験を絵や工作物で表現、展示した別室で手作りのケーキやお茶でもてなした。

第二部は加藤優徳島文理大学教授の司会によるディスカッション「課題と展望」。各講師からの発言のあと、一般参加者からも活発な質問や意見が相次いだ。シンプ・ポジウム事務局でまとめた報告書から紹介しよう。

▽司会 まず、それぞれの報告についてゲストの鎌田氏からコメントをいただいた。

▽鎌田 遍路は旅であり、それによる地元への寄与ないし役割があるはず。地元は遍路によって全国からの情報を得ている。金銭に換えられない価値がある。旅する側としては家を出た時から旅が始まるのであり、遍路により人は救われてい

る。交通が発達した二十一世紀は歩くことが重要な意味をもち、乗り物では見えないものが見えてくる。

奈良大学では世界遺産の構築を目指しているが、いわゆるユネスコの世界遺産に限るのではなく、市民を主とした実践的なものとしての世界遺産であるべきという考え方。四国遍路もそういう意味で他の世界遺産と同等の価値がある。

▽司会 第一部の報告

担い手になってほしい。遍路研究は四国にある大学だからこそであり、総合研究プロジェクトを立ち上げた。

▽平井 徳島大学として組織的な取り組みはないが、体験学習の中で歩き遍路を実施している。徳島大学地域連携推進室長に就任したが、大学と地域社会との連携や地域貢献をどのようにしたらよいか問われている。町づくり、地域づくりの中

に四国遍路というコンセ

歩くことで地域交流 学生からお接待実践

大石氏 市川氏



ケーキやお茶のお接待を受ける受講生

を踏まえ、①大学教育と

の関わりでの四国遍路②歩き遍路の実践③の二点について意見を伺いたい。

▽大石 鳴門教育大に

来ている小中高の現職教員が遍路を希望するが、歩くことにどのように取り組めるか考えたい。歩くことで地域の人々との交流や地域文化への理解を持つことを目指したい。また、現職教員は地元に戻ったあと、地域活性の

プトを入れたい。

歩き遍路を実践している明德短大に遍路中の事故、保険はどうしているか、費用はどのくらいかかっているか教えてもらいたい。

▽寺峰 学生による身近な地域観察には感性が求められる。学生を連れて長い旅をするのは極めて大変。学生との波長合わせが必要で、合わない

と予想できる場合は取り

やめることもある。

▽市川 まず平井氏への回答。今まで重大な事故は起こっていない。万一に備えて随行車を用意、学生の連絡先なども把握している。保険は、四月に学生が入る保険でカバー。費用は一日一万円弱。靴はいいものを、ザックもそれなりのものを用意したいが、合計すると五〜六万円かかるので今後の課題。

参加学生の評価は「Ⅰ」はレポート、「Ⅱ」は①実践ノートをつける②歩けたか③役割を果たしたか④感想文により総合的に判断する。三人の教員で判断するが課題はある。これに介護福祉士という専門性を活かせれば、その視点で評価する。

要。香川県の札所国分寺で、授業としてお接待の実践が行われたが、お接待するだけでは遍路の大変さは分からない。歩かせるのが一番。学生に宗教体験は無理なので、自由な遊びという気持ちから入りたい。

▽司会 議論はすでに歩き遍路の実践に入っているが、改めて問題点、方向性などについて発言を願いたい。会場からも意見、感想、質問など出していただきたい。

▽平井 遍路実践といっても、今のところ単なる見学者の域にとどまっている。授業の中で体系化していかなければ

▽市川 単位があるからやるという学生もいる。また、お接待を学生がすればいいと思っ

▽上杉 遍路実践は一人

は

では質的に全く異なる。▽会場から 上杉氏の「遍路は究極の遊び」という報告に、もつと突っ込んでほしい。遊びと聖なるものとの対比で、後者を「哲学」に置き換えたほうがよいのではないか。明德短大は四単位でなく、もう二単位増やしたかどうか。

▽上杉 遊びは享乐的という評価で捉えられているが、そうではなく何か夢中になることが遊びである。やがて自問が生じ、自分を知ることにつながる。

▽会場から ドイツで一カ月の語学研修をしたが、学生は大きく成長した。インターンシップ体験でも、社会と出会うことで学生は大きく変わる。学生の成長ということなら、必ずしも遍路でなくてもよいのではないか。遍路を大学教育に用いる根本的な理由は何か、自分としては遍路に宗教的なものを求めたい。

▽会場から 本来の遍路は宗教的なもの。人間性・生命観など日本でも失われたものを取り戻す教育が必要である。遍路は人間教育の場であり、一緒に歩き、一緒に作り上げるもの。何よりもお接

(4ページへ続く)

(3ページから続く)
待が素晴らしい。何で優しくしてくれるのだろうかと思う。単位は六単位でもよい。それほど得るところが大きい。

▽会場から 遍路教育学を確立すべきである。遍路は宗教学、歴史学、民俗学、地理学その他種々の学問に関わる。大存立のため地域の恰好の素材である四国遍路を生かすことは生き残る道であり、それを求めて海外からも四国へ来るのではないか。

四国遍路に関して大学同士で共有化の面と、個々の独自性をどのように両立させるかが課題。

▽市川 歩き遍路大学ネットワークは、遍路教育学について各大学がばらばらにとりこんでいたものを、交流を図り高い次元のものにしていきたいという考えから出来た。共有化と独自性をどのように両立させるかは、学生にとっても選択肢が増えるので好ましい。

▽司会 予定時間を超過した。歩き遍路大学ネットワークは発足して日も浅く、体制的にも不十分。交流を活発に、活動を本格的に行う上で今日の報告、いろいろな意

見を生かし発展させていきたい。